



平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福岡県 】

大牟田市立天領小学校

1 実践テーマ	【 I III V 】
2 実施対象者	大牟田市立天領小学校 「パラリンピアンとの交流」：全学年 「道徳」：第三学年（3クラス）71人 「生活科」：第二学年（3クラス）77人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 道徳・生活科 ） ② 行事名（ パラリンピアンと交流しよう ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	浦田選手との交流やゴールボールの体験を通して、スポーツの素晴らしさや困難に負けず目標に向かって努力することの大切さを学ぶ。また自分自身の力やよさ、できそうなことを前向きに頑張り続けられることが分かり、努力をしていこうとする態度を育てる。
5 取組内容	<p>【事前学習：第三学年】</p> <p>○ 道徳「自分で頑張り続けるために」希望と勇気、努力と強い意志</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>オリンピック金メダリストの高橋尚子選手を題材として取り上げ、他人と比較するのではなく自分の頑張りや目に向けると、自分自身の力やよさ・好きなこと等を前向きに頑張り続けることができるということを学ぶ学習を行った。</p> </div> </div> <p>【パラリンピアンとの交流：全学年】</p> <p>○ 行事「パラリンピアンと交流しよう」</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>ロンドンパラリンピックのゴールボール競技、金メダリストの浦田理恵選手を招聘し、スポーツの素晴らしさや困難に打ち勝つことの大切さについての講話とゴールボール体験を通して、チームスポーツの意義や価値、努力することの大切さ、パラリンピック選手のプレーのすご</p> </div> </div>



さを学ぶ学習を行った。当日金メダルを持参され、児童は本物の金メダルに大きな感動を味わうことができた。

【事後学習：第二学年】

○ 生活科「まちのやさしさを見つけに行こう」



町探検をしたときに気づいた点字ブロックや優先席等の「町のやさしさ」や浦田選手の講話から、目の不自由な方がどのような点で難しさを感じるかを考え、助け合って生きることの大切さを学ぶ学習を行った。ゴールボールの経験を通して、困難も乗り越えて前向きに明るく頑張っている選手へ憧れや尊敬の気持ちを持つと共に、「みんな」という言葉が表す人の見方を広げ、いろいろな人がいることを知り、助け合って生きることの大切さを実感することができた。

6 主な成果

○ オリンピック・パラリンピックの教材化

目標達成に向けて前向きに頑張り続けていこうとする態度を育てるために、オリンピック選手の考え方を教材にすることで、人と比べるだけでなく、自分自身と向き合って努力する方法もあるという努力する過程の考え方を児童に提示することができた。(第3学年：道徳「自分で頑張り続けるために」)

自分の町に住む全ての人との共生について考え、みんなが過ごしやすい町にしたいという思いを持たせるために、ゴールボールの体験をすることで、ゴールボールを体験する前よりも「車いすの方が通りやすいように広がっている。」など、気づきを広げることができた。(第2学年：生活科「まちのやさしさを見つけに行こう」)

○ 教師の手応え

パラリンピックに出場された選手との交流を通して、児童は努力することの大切さや選手のすごさを知り、憧れや尊敬の思いを持つと共に、自らの生き方を振り返ることができた。また児童も2020年へ向けて目標を持つことができ、選手と共に自分たちも成長していきたいという強い思いを持つ様子が見られた。

7実践において工夫した点(事業の特色)

本校は、体育科学習の指導と全校朝会、各教科・道徳を関連させた教育活動を展開することにより、「オリンピック・パラリンピックについての学び」や「オリンピック・パラリンピックを通しての学び」を推進した。

8主な課題等

実践の幅を広げるために、年間指導計画に「オリ・パラ教育」をどのように位置付け、系統性を持たせて実践を積み重ねていくかが大きな課題である。

児童もオリ・パラ選手と同様に努力する力を持っていることに気づかせるために、憧れだけで終わるのではなく選手をより身近に感じられるような教材の工夫をすることが必要である。

9来年度以降の実施予定

昨年度・本年度に開発したオリ・パラ教材を、年間指導計画へ位置付け、「オリ・パラ」を支える立場の内容の実践を進めていきたい。